

科 目 名		学 年	単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	授 業 形 態	学 修 単 位
法学: Law		4SC	2	100分×30回	必修	講義・通年	○
教 員 名		坂口 浩 SAKAGUCHI Hiroshi					
授 業 概 要	<p>国家規範としての法の必要性と意味を理解するとともに、近代市民社会における法の概念、理念、問題点を理解する。一方で法の基本概念を考えながら、他方で社会生活をおくる上でかかわる法的諸問題の具体的法的問題に即しながら、法全体を見渡す形で講義を進める。前半は憲法の基本構造、概念を中心に講義する。後半は日本国憲法の基本的原理を中心に講義する。法律全般を講義することは難しいので、各講義の途中で、民法や刑法その他の法律について日常生活上の具体例を通して講義する。</p>						
到 達 目 標				評 価 方 法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活の中での法の重要性を理解することができる。</li> <li>・法の目的を理解することができる。</li> <li>・具体的事件の中で法がどのように適用されるかを理解することができる。</li> <li>・憲法の基本理念を理解することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・①中間試験35%、②期末試験35%、③自学自習レポート30%で評価する</li> </ul>			
学 習 ・ 教 育 目 標		(F)③④		JABEE基準1(1)		(a)	
授 業 計 画	回	項 目	内 容	回	項 目	内 容	
	第1	法とは何か	法の必要性、法学を考える上での注意(所有概念を通して)	第16	憲法の分類1	成文憲法、不文憲法 欽定憲法、民定憲法、条約憲法	
	第2	規範とは何か	社会規範の性質(歴史的変遷)	第17	憲法の分類2	軟性憲法、硬性憲法	
	第3	社会規範の分類	宗教規範、慣習規範、道徳規範、法規範	第18	憲法の最高法規性	最高法規、司法審査制、公務員の憲法遵守義務	
	第4	法の目的1	正義	第19	憲法成立過程1	ポツダム宣言と日本政府	
	第5	法の目的2	法的安定性、公共の福祉	第20	憲法成立過程2	ポツダム宣言受諾後の経過	
	第6	法の存立基盤	文化共同体、政治的組織体	第21	制定過程の問題点1	連合国の影響	
	第7	法と強制	法の拘束力、強制の方法	第22	制定過程の問題点2	象徴天皇制と戦争放棄 押し付け憲法説と日本人の自主性	
	第8	中間試験		第23	中間試験		
	第9	法の構造1	法秩序の階層性	第24	憲法の基本原理1	国民主権主義 個人の尊厳と基本的人権	
	第10	法の構造2	法規範の重層性(行為規範、裁判規範)	第25	憲法の基本原理2	民主主義 権力分立主義	
	第11	権利と権利主体1	実体法上の権利 私法(身分権、物権、債権) 公法(国家的公権、個人的公権)	第26	戦争放棄と国民主権	明治憲法と天皇主権 日本国憲法の主権規定の特徴	
	第12	権利と権利主体2	手続法上の権利	第27	象徴天皇制	象徴天皇の特殊の地位 天皇の国事行為	
	第13	法源1	制定法、慣習法	第28	永久平和主義1	憲法の表現 第9条の解釈論争の背景	
	第14	法源2	学説、条理	第29	永久平和主義2	解釈論争 自衛隊合憲説 自衛隊違憲説 最高裁の判断	
第15	法の解釈	解釈の必要性、 類推解釈と反対解釈	第30	総括	法学とは何か		
自学自習の内容	法学関係のテーマを各自で決めてそれについて調べレポートにして提出する。						
関連科目	現代社会、倫理、世界史、日本史						
教科書	ノート講義						
参考書	『法と生活』創言社 嶋田英男編						
授業評価・理解度	最終回に授業アンケートを行う。						
副担当教員	高橋 正和						
備考							